

博士論文(要約)

論文題目 六朝隋唐期における道教思想の整合化と三教交渉

氏名 李 穌 書

# 六朝隋唐期における道教思想の整合化と三教交渉

## 目次

序論	1
はじめに	1
一、先行研究	4
(一) 道教経典に関する先行研究	4
(二) 道教史に関する先行研究	10
(三) 老子、老君に関する先行研究	15
(四) 道教造像に関する先行研究	17
二、本論文の目的と構成	22
第一章 北朝道教史に関する幾つかの考察	25
一、問題意識と資料について	25
二、造像記に見える老君と天尊	28
(一) 道教の造像をめぐる諸問題	28
(二) 南北朝隋代における造像記に見える老君と天尊	33
1. 造像の数量・年代・場所等について	50
2. 造像の用語、目的及び研究方法についての再考	51
3. 造像記の反映する北朝期道教の発展史	54
(1) 北齊における天師道	54
(2) 北周における天師道と南方系道経の影響	56
(三) 造像記の歴史的意義	58
三、正史並びに「道教實花序」に見える老君と天尊	60
(一) 『魏書』釋老志に見える老君の姿	60
(二) 『隋書』經籍志の「道経序」に見える老君と天尊	65
(三) 橋渡しとしてのテキスト：「道教實花序」	71
四、おわりに	75

第二章 『弘明集』『廣弘明集』に見られる道教批判理論の定型化について	79
はじめに	79
一、『弘明集』に見られる道教批判について	80
二、『廣弘明集』に見られる道教批判について	88
(一)『弘明集』『廣弘明集』に見える道教批判内容の異同	93
(二) 文体の変化について	94
(三) 道教經典の重視と道教勢力の台頭	94
三、道教側の反応	95
四、後世への影響について	98
おわりに	100
第三章 『弘明集』『廣弘明集』に見られる佛教の道教教理の理解について	103
はじめに	103
一、『弘明集』に見られる道教教理の理解について	104
二、『廣弘明集』に見られる道教教理の理解について	116
おわりに	135
第四章 三清考	139
はじめに	139
一、『洞玄靈寶真靈位業図』をめぐる諸問題	140
二、南北朝隋唐期の道教經典に見える天界の三清説と至尊神体系について	144
三、南北朝隋唐道教の齋法科儀類經典に現れた至尊神信仰体系の変遷	155
四、南北朝道教戒律經典に見える至尊神信仰体系について	160
五、三清信仰体系の成立	164
おわりに	180
第五章 隋代以前における重玄思想について	183
一、先行研究の検討	183
二、『太玄真一本際經』など諸經典に現れる重玄思想について	187
三、隋代までのいわゆる「重玄諸子」の重玄説について	200
おわりに	213

## 第六章 隋唐初期道教における般若空観思想の受容について

——『太玄真一本際妙經』と『道教義樞』を中心に	217
はじめに	217
一、『太玄真一本際妙經』「護國品」に見える般若思想について	218
二、『太玄真一本際妙經』「付囑品」に見える般若思想について	225
三、『太玄真一本際妙經』をめぐる教理上の諸問題	230
四、『道教義樞』に見える般若空観について	233
おわりに	238

## 第七章 道儒交渉史の一つの様相——「屈服史」を再検討

一、「屈服史」をめぐる諸問題	241
二、荀濟の排仏論から語る	244
三、儒教における六天説の成立と展開	255
四、六天説の道教的変容とその歴史的意義	265
おわりに、「屈服史」再考	274

## 終章

### 表

「第一章」：「南北朝隋唐道教造像一覽表」	32
「第二章」：「(表一)『弘明集』に見られる道教批判の主要な内容」	87
「第二章」：「(表二)『廣弘明集』における『弘明集』から引き継がれた 道教批判の主要な内容」	92
「第二章」：「(表三)『廣弘明集』に新たに現れた道教批判の主要な内容」	92
「第四章」：「(表一)「古上清經系經典群に見える至尊神」	149
「第四章」：「(表二)「古靈寶經系經典群に見える至尊神」	151
「第四章」：「(表三)『道教靈驗記』所見の老君と天尊」	170

## 参考文献

291



## 本 文

本博士論文は『晉唐道教の展開と三教交渉』（ISBN: 9784762967115。李蘇書 著）として、2022年3月30日に汲古書院により刊行された為、全文公表出来ません。

## 参考文献

### 【一次資料】

- 〔漢〕司馬遷撰『史記』北京：中華書局（1959）
- 〔漢〕班固撰『漢書』北京：中華書局（1979）
- 〔晉〕陳壽撰『三國志』北京：中華書局（1959）
- 〔晉〕常璩著、任乃強校注『華陽國志校補圖注』上海：上海古籍出版社、2007
- 〔晉〕司馬彪撰〔梁〕劉昭注補『後漢書志』北京：中華書局、1971
- 〔宋〕范曄撰〔唐〕李賢等注『後漢書』北京：中華書局（1971）
- 〔北周〕庾信撰〔清〕倪璠注『庾子山集注』北京：中華書局、2006
- 〔北齊〕魏收撰『魏書』北京：中華書局（1974）
- 〔梁〕沈約撰『宋書』北京：中華書局（1974）
- 〔梁〕蕭子顯撰『南齊書』北京：中華書局（1972）
- 〔梁〕釋慧皎撰、湯用彤校注、湯一玄整理『高僧傳』北京：中華書局、1992
- 〔唐〕韓愈著、劉真倫、岳珍校注『韓愈文集彙校箋注（七冊）』北京：中華書局、2010
- 〔唐〕孔穎達撰『（影印南宋越刊八行本）禮記正義』北京：北京大學出版社、2014
- 〔唐〕徐堅等編『初學記』北京：中華書局、2005
- 〔唐〕杜佑撰『通典』北京：中華書局、1988
- 〔唐〕李延壽撰『南史』（1975）
- 〔唐〕陸德明撰〔清〕盧文弨考證『經典釋文』臺北：藝文印書館（『百部叢書集成』·『抱經堂叢書』）、1969
- 〔唐〕蕭嵩等奉敕撰、池田溫解題『大唐開元禮 附大唐郊祀錄』東京：古典研究会、1981
- 〔唐〕魏徵等撰『隋書』北京：中華書局（1973）
- 〔後晉〕劉昫等撰『舊唐書』北京：中華書局（1975）
- 〔宋〕王欽若等編『冊府元龜』北京：中華書局、1960
- 〔宋〕王溥撰『唐會要（第十四冊）』臺北：藝文印書館（『百部叢書集成』·『聚珍版叢書』）、1969
- 〔宋〕王溥撰、牛繼清校正『唐會要校正』西安：三秦出版社、2012
- 〔宋〕司馬光『資治通鑑』北京：中華書局（1956）
- 〔宋〕歐陽修、宋祁撰『新唐書』北京：中華書局（1975）

- 〔宋〕歐陽修撰〔宋〕徐無黨註『新五代史』北京：中華書局（1974）
- 〔宋〕薛居正等撰『舊五代史』北京：中華書局（1976）
- 〔宋〕洪遵輯『翰苑羣書』臺北：藝文印書館（『百部叢書集成（原刻景印）・知不足齋叢書』）、1966年
- 〔高麗〕一然『三國遺事』東京：学習院東洋文化研究所、1964
- 〔高麗〕金富軾撰、朝鮮史学会編、末松保和校定『三國史記』東京：国書刊行会、1971、三版
- 〔清〕馬國翰輯『玉函山房輯佚書』京都：中文出版社、1979
- 〔清〕葉昌熾撰、柯昌泗評『語石 語石異同評』北京：中華書局、2005
- 〔清〕彭定求輯『全唐詩』北京：中華書局、1960
- 〔清〕阮元校勘『重刊宋本禮記注疏附校勘記』臺北：藝文印書館、1955
- 『大正新脩大藏經』東京：大正新脩大藏經刊行会、1924～1978
- 『道藏』北京：文物出版社・上海：上海書店・天津：天津古籍出版社、1988
- 『中華道藏』北京：中華書局、2004
- 『藏外道書』成都：巴蜀書社、1994
- 李德範輯『敦煌道藏』北京：中華全國圖書館文獻縮微複製中心、1999
- 王家葵校理『真靈位業圖校理』北京：中華書局、2013
- 王叔岷『莊子校銓（上）』北京：中華書局、2007
- 王明『抱朴子內篇校釋』北京：中華書局、2002
- 王利器『顏氏家訓集解（增補本）』北京：中華書局、1993
- 王卡點校『老子道德經河上公章句』北京：中華書局、1993
- 郭慶藩集釋『莊子集釋』臺北：世界書局、1978
- 熊鐵基、陳紅星主編『老子集成』北京：宗教文化出版社、2011
- 朱謙之『老子校釋』北京：中華書局、2006
- 周作明點校『無上秘要』北京：中華書局、2016

【二次資料（著書・和文）】（著者名五十音順）

- 浅野春二『飛翔天界：道士の技法』東京：春秋社、2003
- 吾妻重二『朱子学の新研究』東京：創文社、2004
- 吾妻重二『宋代思想の研究——儒教・道教・仏教をめぐる考察——』大阪：関西大学出版部、2009
- 秋月觀瑛編『道教研究のすすめ：その現状と問題点を考える』東京：平河出版社、1986
- アンヌ・チャン著、志野好伸・中島博隆・廣瀬玲子訳『中国思想史』東京：知泉書館、2010



- アンリ・マスペロ著、川勝義雄訳『道教：不死の探究』東京：東海大学出版会、1968
- 石井昌子『道教學の研究——陶弘景を中心に——』東京：国書刊行会、1980
- 石田憲司主編『道教関係文献総覧』東京：風響社、2001
- 石松日奈子『北魏仏教造像史の研究』東京：星雲社、2005
- 上田正昭『古代の道教と朝鮮文化』京都：人文書院、1989
- 梅村尚樹『宋代の学校：祭祀空間の変容と地域意識』東京：山川出版社、2018
- 大形徹『不老不死—仙人の誕生と神仙術』東京：講談社、1992
- 大村西崖『中国美術史彫塑篇』東京：国書刊行会、1980
- 大淵忍爾『敦煌道経目録』京都：法蔵館、1960
- 大淵忍爾『敦煌道経（目録編・図録編）』東京：福武書店、1978~1979
- 大淵忍爾『中國人の宗教儀禮：佛教、道教、民間信仰』東京：福武書店、1983
- 大淵忍爾『初期の道教——道教史の研究 其の一——』東京：創文社、1991
- 大淵忍爾『道教とその經典——道教史の研究 其の二——』東京：創文社、1997
- 大淵忍爾『中國人の宗教儀禮：道教篇』東京：風響社、2005
- 尾崎雄二郎ほか編『中国文化史大事典』東京：大修館書店、2013
- 加賀栄治『中国古典解釈史：魏晉篇』東京：勁草書房、1964
- 加藤千恵『不老不死の身体——道教と「胎」の思想』東京：大修館書店、2002
- 鎌田茂雄『中国仏教史（第三卷）』東京：東京大學出版會、1984
- 狩野直喜『魏晉學術考』東京：筑摩書房、1968
- 神塚淑子『六朝道教思想の研究』東京：創文社、1999
- 神塚淑子『唐代道教関係石刻史料の研究』（平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書)、2006
- 神塚淑子『道教經典の形成と仏教』名古屋：名古屋大学出版会、2017
- 金子修一『中国古代皇帝祭祀の研究』東京：岩波書店、2006
- 金秀雄『中國神仙詩の研究』東京：汲古書院、2008
- 金谷治『秦漢思想史研究』東京：日本學術振興會、1960
- 川原秀城『毒薬は口に苦し：中国の文人と不老不死』東京：大修館書店、2001
- 氣賀沢保規編『中国仏教石経の研究——房山雲居寺石経を中心に——』京都大学学術出版会、1996
- 久保田量遠『支那儒道佛交渉史』東京：大東出版社、1943

- 窪徳忠『中国宗教における受容・変容・行容』東京：山川出版社、1979
- 倉本尚徳『北朝仏教造像銘研究』京都：法蔵館、2016
- 小島毅『中国近世における礼の言説』東京：東京大学出版会、1996
- 小島毅『儒教の歴史』東京：山川出版社、2017
- 小南一郎『中国の神話と物語り』東京：岩波書店、1984
- 小野澤精一、福永光司、山井湧編『気の世界：中國における自然観と人間観の展開』東京：東京大学出版会、1978
- 小柳司氣太編『白雲觀志附東嶽廟志』東京：東方文化學院東京研究所、1934
- 小林正美『六朝道教史研究』東京：創文社、1990
- 小林正美『中国の道教』東京：創文社、1998
- 小林正美『唐代の道教と天師道』東京：知泉書館、2003
- 小林正美編『道教の齋法儀礼の思想史的研究』東京：知泉書館、2006
- 興膳宏、川合康三『隋書經籍志詳攷』東京：汲古書院、1996
- 佐川英治『中国古代都城の設計と思想』東京：勉誠出版、2016
- 佐藤智水『北魏仏教史論考』岡山：岡山大学文学部、1998
- 島田虔次『中国思想史の研究』京都：京都大學學術出版会、2002
- 常盤大定『支那における仏教と儒教道教』東京：東洋文庫、1930
- 車柱環著、三浦國雄、野崎充彦訳『朝鮮の道教』京都：人文書院、1990
- 楠山春樹『老子傳説の研究』東京：創文社、1979
- 楠山春樹編『敦煌と中國道教』東京：大東出版社、1983
- 楠山春樹『老子の人と思想』、東京：汲古書院、2002
- 砂山稔『隋唐道教思想史研究』東京：平河出版社、1990
- 津田左右吉『道家の思想とその展開』東京：岩波書店、1939
- 塚本善隆編『肇論研究』京都：法蔵館、1955
- 塚本善隆『支那佛教史研究（北魏篇）』東京：清水弘文堂書房、1942 初版  
1969 三版
- 塚本善隆『魏書釋老志の研究』京都：仏教文化研究所出版部、1961
- 立川武蔵『「空」の構造——：『中論』の論理』東京：第三文明社、1986
- 立川武蔵『中論の思想』京都：法蔵館、1994
- 立川武蔵『空の思想史』東京：講談社、2003
- 谷川道雄『隋唐帝国形成史論』東京：筑摩書房、1971
- 谷川道雄『中国中世社会と共同体』東京：国書刊行会、1976
- 谷川道雄『中国中世の探究：歴史と人間』東京：エディタースクール出版部、1987
- 玉城康四郎『中国仏教思想の形成（第一卷）』東京：筑摩書房、1971
- 土田健次郎『道學の形成』東京：創文社、2002

- 富谷至『文書行政の漢帝国：木簡・竹簡の時代』名古屋：名古屋大学出版会、2010
- 中村圭爾『六朝政治社會史研究』東京：汲古書院、2013
- 中村璋八編『緯学研究論叢——安居香山博士追悼——』東京：平河出版社、1993
- 中島隆博『共生のプラクシス 国家と宗教』東京：東京大学出版会、2011
- 中嶋隆藏『六朝思想の研究』京都：平楽寺書店、1985
- 中嶋隆藏編『出三藏記集序卷訳注』京都：平楽寺書店、1997
- 中嶋隆藏『雲笈七籤の基礎的研究』東京：研文出版、2004
- 長尾雅人『中観と唯識』東京：岩波書店、1978
- 野口鐵郎ら編『道教事典』東京：平河社、1996
- 野上俊静『元史釋老傳の研究』京都：野上俊静博士頌壽記念刊行會、1978
- 野村耀昌『周武法難の研究』東京：大学教育社、1976
- 蜂屋邦夫編著『中国道教の現状——道士・道協・道観——（本文冊・図版冊）』東京：東京大学東洋文化研究所、1990
- 蜂屋邦夫編著『中国の道教——その活動と道観の現状——（本文冊・図版冊）』東京：東京大学東洋文化研究所、1995
- 平井俊榮『中国般若思想史研究—吉蔵と三論学派—』東京：春秋社、1976
- 平川彰ほか編『講座・大乘仏教4法華思想』東京：春秋社、1983
- 福井康順『道教の基礎的研究』東京：理想社、1952
- 福井康順『東洋思想史研究』東京：書籍文物流通會、1960
- 福井重雅『漢代儒教の史的研究—儒教の官學化をめぐる定説の再検討—』東京：汲古書院、2005
- 福井文雅『増補修訂 道教の歴史と構造』東京：五曜書房、2000
- 福永光司『道教思想史研究』東京：岩波書店、1988
- 藤井淳編『最澄・空海将来『三教不斉論』の研究』東京：国書刊行会、2016
- 藤善眞澄『道宣伝の研究』京都：京都大学学術出版会、2002
- 佛教思想研究会編・中村元等執筆『仏教思想 空(6)』京都：法蔵館、1981
- 佛教思想研究会編・中村元等執筆『仏教思想 空(7)』京都：法蔵館、1982
- 堀内淳一『北朝社会における南朝文化の受容：外交使節と亡命者の影響』東京：東方書店、2018
- 前田繁樹『初期道教経典の形成』東京：汲古書院、2004
- 牧田諦亮編『弘明集研究』京都：京都大學人文科學研究所、1973~1975
- 松原三郎『増訂 中国仏教彫刻史研究』東京：吉川弘文館、1966
- 松原三郎『中国仏教彫刻史論（本文編）』東京：吉川弘文館、1995
- 松本浩一『宋代の道教と民間信仰』東京：汲古書院、2006

- 丸山宏『道教儀禮文書の歴史的研究』東京：汲古書院、2004
- 溝口雄三ほか編『中国思想文化事典』東京：東京大学出版会、2001
- 道端良秀『中国仏教と社会福祉事業』京都：法蔵館、1967
- 道端良秀『唐代佛教史の研究』京都：法蔵館、1967 二刷
- 結城令聞『唯識思想（結城令聞著作選集 1）』東京：春秋社、1999
- 森三樹三郎『梁の武帝：仏教王朝の悲劇』京都：平楽寺書店、1956
- 宮川尚志『六朝宗教史』東京：弘文堂、1948
- 宮川尚志『六朝史研究（政治社会篇）』京都：平楽寺書店、1956
- 宮川尚志『六朝史研究（宗教篇）』京都：平楽寺書店、1964
- 三浦國雄『不老不死という欲望——中国人の夢と実践』京都：人文書院、2000
- 麥谷邦夫『六朝隋唐道教思想研究』東京：岩波書店、2018
- 『望月佛教大辭典（増訂版）』京都：世界聖典刊行協會、1955
- 矢嶋玄亮『修訂・増補 中國佛道譜』東京：国書刊行会、1974
- 安居香山『緯書の成立とその展開』東京：国書刊行会、1979
- 安居香山『識緯思想の総合的研究』東京：国書刊行会、1984
- 山崎宏『支那中世仏教の展開』京都：法蔵館、1971
- 山田俊『唐初道教思想史研究』京都：平楽寺書店、1999
- 山田利明『六朝道教儀禮の研究』東京：東方書店、1999
- 横山紘一『唯識の真理観』京都：法蔵館、2014
- 横手裕『中国道教の展開』東京：山川出版社、2008
- 横手裕編『宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の研究』（平成 23 年度～平成 25 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2014）
- 横手裕『道教の歴史』東京：山川出版社、2015
- 吉岡義豊『道教の研究』京都：法蔵館、1952
- 吉岡義豊『道教經典史論』東京：道教刊行會、1955
- 吉岡義豊『道教と佛教（第一）』東京：日本学術振興会、1959
- 吉岡義豊『道教と佛教（第二）』東京：豊島書房、1970
- 吉岡義豊『道教と佛教（第三）』東京：国書刊行会、1976
- 吉岡義豊『吉岡義豊著作集（第三卷）』東京：五月書房、1988
- 吉川忠夫『六朝精神史研究』京都：同朋舎、1984
- 吉川忠夫訳『大乘仏典 4〈中国・日本篇〉弘明集 広弘明集』東京：中央公論社、1988
- 吉川忠夫編『中國古道教史研究』京都：同朋舎、1992
- 吉川忠夫編『六朝道教の研究』東京：春秋社、1993
- 吉川忠夫『古代中国人の不死幻想』東京：東方書店、1995

- 吉川忠夫、麥谷邦夫編『真誥研究（譯注篇）』京都：京都大學人文科學研究所、2000
- 吉川忠夫『読書雑誌：中国の史書と宗教をめぐる十二章』東京：岩波書店、2010
- 吉村誠『中国唯識思想史研究——玄奘と唯識学派——』東京：大蔵出版社、2013
- 渡辺信一郎『中国古代の王権と天下秩序——日中比較史の視点から』東京：校倉書房、2004
- 渡邊義浩編『兩漢における詩と三伝』東京：汲古書院、2007
- 渡邊義浩『後漢における「儒教國家」の成立』東京：汲古書院、2009
- 渡邊義浩『西晋「儒教國家」と貴族制』東京：汲古書院、2010

【二次資料（論文・書評等、和文）】（著者名五十音順）

- 愛宕元「唐代樓觀孝——歐陽詢撰「大唐宗聖觀記」碑を手掛かりとして——」（吉川忠夫編『中國古道教史研究』所収、頁 275~322）
- 池澤優「後漢時代の鎮墓文と道教の上奏文の文章構成——『中国道教考古』の検討を中心に」（渡邊義浩編『兩漢儒教の新研究』所収、頁 343~427）
- 池田秀三「体と用」（池田秀三ら執筆『（岩波講座・東洋思想第十四卷）中国宗教思想 2』所収、東京：岩波書店、1990、頁 17~30）
- 池田秀三「後漢黄老学の特性」（坂出祥伸先生退休記念論集刊行会編『中国思想における身体・自然・信仰——坂出祥伸先生退休記念論集』所収、東京：東方書店、2004、頁 619~634）
- 稲本泰生「書評 倉本尚徳著『北朝仏教造像銘研究』（『史学雑誌』126：11（2017）、頁 75~83）
- 王承文「靈寶「天文」信仰と古靈寶經教義の展開——敦煌本『太上洞玄靈寶真文度人本行妙經』を中心に——」（京都大學人文科學研究所編『中國中教文獻研究』所収、京都：臨川書店、2007、頁 293~335）
- 横超慧日「法華經の一乘思想と仏伝」（同氏『法華思想の研究』、京都：平樂寺書店、1971、頁 3~40）
- 王葆玟「「重玄之道」と「玄冥之境」（『東洋文化研究』6（2004）、頁 61~86）
- 加賀榮治「「黄老」の「黄」の行方をめぐって」（『東方宗教』70（東京、1987、頁 1~21）
- 垣内智之「道教における九天説とその周邊」（麥谷邦夫編『三教交渉論叢続編』所収、京都：京都大學人文科學研究所、2011、頁 27~55）
- 神塚淑子「南北朝時代の道教造像」（礪波護編『中国中世の文物』京都：京

- 都大学人文科学研究所、1993、頁 225~289)
- 神塚淑子「六朝靈寶經見える葛仙公」 麥谷邦夫編『三教交渉論叢』所収、  
京都：京都大學人文科學研究所、2005、頁 1~46)
- 神塚淑子「隋代の道教造像」(『名古屋大学文学部研究論集(哲学)』52(2006)、  
頁 1~26)
- 菅野博史「吉蔵の法華經疏において」(同氏『中国法華思想の研究』第三篇  
第三章、東京：春秋社、1994、頁 695~786)
- 北村一仁「書評 倉本尚徳著『北朝仏教造像銘研究』」(『唐代史研究』20  
(2017)、頁 167~176)
- 金文京「『玉燭寶典』所載『法滅盡經』に見える老子・孔子・項橐三聖派遣  
説」(『東方宗教』117(2011)、頁 1~17)
- 金志玟「黄庭内景經序」小考——その成立と性格について」(『中国思想史  
研究』29(2009)、頁 22~68)
- 窪徳忠「二つの通道観——山崎宏博士の批判に答う」(『東方宗教』55(1980)、  
頁 1~25)
- 倉本尚徳「北朝造像銘にみる道佛二教の關係——關中における邑義の分析  
を中心に」(『東方宗教』109(2007)、頁 18~51)
- 倉本尚徳「書評：神塚淑子『道教經典の形成と仏教』」(『唐代史研究』21  
(2018)、頁 182~190)
- 久保田量遠「北齊文宣帝の道教廢斥説は佛教徒の偽構なのか」(『大正大學  
學報』17(1934)、頁 25~32)
- 小林正美「東晋・南朝における「佛教」・「道教」の称呼の成立と貴族社会」  
(渡邊義浩編『魏晉南北朝における貴族制の形成と三教・文学——歴史  
学・思想史・文学の連携による——』所収、東京：汲古書院、2011、頁  
51~63)
- 小幡みちる「北魏の華北支配と道教」(記念論集刊行會編『福井重雅先生  
古稀・退職記念論集：古代東アジアの社會と文化』所収、東京：汲古書  
院、2007、頁 277~295)
- 小幡みちる「道教石刻研究に関する現状と調査」(『史滴』30(2008)、頁  
123~140)
- 小南一郎「「漢武帝内傳」の成立(上)」(『東方學報』48(1975)、頁 183~  
227)
- 小南一郎「「漢武帝内傳」の成立(下)」(『東方學報』53(1981)、頁 423~  
546)
- 小島毅「郊祀制度の変遷」(『東洋文化研究所紀要』108(東京、1989)、頁  
123~219)

- 小島毅「天子と皇帝——中華帝国の祭祀体系」(松原正毅編『王権の位相』所収、東京：弘文堂、1991、頁 333~353)
- 小島毅「儒教経学と王権」(同氏編『東アジアの王権と宗教』所収、東京：勉誠出版、2012、頁 52~64)
- 古勝隆一「都講の再検討」(麥谷邦夫編『中國中世社會と宗教』、京都：道氣社、2002、頁 141~161)
- 興膳宏「文心雕龍と出三藏記集」(福永光司編『中国中世の宗教と文化』所収、京都：京都大學人文科學研究所、1982、頁 103~126)
- 興膳宏「隋書経籍志道経序の道教教理——特に無上秘要との関連について——」(『京都大學文學部研究紀要』32 (1993)、頁 1~44)
- 齋藤龍一「中國南北朝時代の「廊廡様式」佛教・道教造像に関する再検討」(曾布川寛編『中國美術の圖像學』所収、京都：京都大學人文科學研究所、2006、頁 321~359)
- 齋藤龍一「道教像のすがたとひろがり——南北朝～唐時代」(齋藤龍一ら編『道教美術の可能性』所収、東京：勉誠出版、2010、頁 83~94)
- 坂本道生「『広弘明集』所収懺文類の一考察」(『天台學報』51 (2008)、頁 179~185)
- 島田虔次「体用の歴史に寄せて」(塚本博士頌壽記念會編『塚本博士頌壽記念佛教史學論集』所収、内外出版、1961)
- 謝添基「〈檄魔文〉などをめぐって」(『人文学報(東京都立大学人文学部)』213、(1990) 頁 95~112)
- 須江隆「南宋・洪邁『夷堅志』に関する二つの国際会議と今後の研究の動向」(『人間科学研究』14、(2017)、頁 85~96)
- 勝呂信静「法華経の二大教義——一乗と久遠本仏——」(同氏編『法華経の思想と展開：法華経研究 X III』所収、京都：平楽寺、2001、頁 3~47)
- 砂山稔「道教重玄派表微：隋・初唐における道教の一系譜」(『集刊東洋學』43 (1980)、頁 31~44)
- 砂山稔「総括——道教研究の方法と課題——」(堀池信夫、砂山稔編『道教研究の最先端』所収、東京：大河書房、2006)
- 高橋睦美「唐玄宗『道德真経』御注・御疏に見える「沖気」と「沖用」について」(『集刊東洋學』111 (2014)、頁 61~80)
- 陳槃著、方垂平訳「黄家当立説の根拠を弁ずる」(中村璋八編『緯学研究論叢——安居香山博士追悼——』所収、東京：平河出版社、1993、頁 21~25)
- 千村實宣「法華経本門開顯の動因とその意趣：本・迹二門構造の網格について」(『天台學報』12 (1969)、頁 39~47)

- 土屋昌明「道教の新羅東傳と長安の道觀：「皇甫奉諫墓誌」を中心に」（『東方宗教』122（2013）、頁1~23）
- 都築晶子「南人寒門・寒人の宗教的想像力について——『真誥』をめぐって——」（『東洋史研究』47:2（1988）、頁24~55）
- 都築晶子「南人寒門・寒人倫理の意識について——東晉後半の上清派經典を中心に——」（『東方宗教』78（1991）、頁45~68）
- 都築晶子「六朝後半期における道館の成立——山中修道——」（小田義久博士還暦記念事業会編『小田義久博士還暦記念東洋史論集』所収、京都：龍谷大学東洋史学研究会、1995、頁317~351）
- 都築晶子「六朝時代の江南社会と道教」（魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題編集委員会編『魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題』所収、東京：汲古書院、1997所収、頁443~471）
- 都築晶子「唐代中期の道觀——空間・經濟・戒律——」（吉川忠夫編『唐代の宗教』所収、京都：朋友書店、2000、頁269~296）
- 津田左右吉「神僊思想に関する二三の考察」（『滿鮮地理歴史研究報告（第十）』、東京：東京帝國大學文學部1924、頁195~464）
- テリー・クリーマン（Terry F. Kleeman）、森由利亞訳「初期教會史料としての道教の倫理規範について」（『東洋の思想と宗教』24（2007）、頁1~26）
- 礪波護「唐中期の佛教と國家」（福永光司編『中国中世の宗教と文化』所収、京都：京都大學人文科學研究所、1982、頁589~651）
- 礪波護「法琳の事蹟にみる唐初の佛教・道教と國家」（吉川忠夫編『中國古道教史研究』所収、京都：同朋舎、1992、頁243~274）
- 中嶋隆藏「重玄派小考——『道德真經廣聖義』所説の検討——」（『日本中國學會報』44（1992）、頁62~74）
- 中村圭爾「六朝貴族制と官僚制」（魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題編集委員会編『魏晉南北朝隋唐時代史の基本問題』所収、東京：汲古書院、1997、頁203~227）
- 野崎充彦「韓国道教研究小史」（遊佐昇ら編『【講座道教】（第六卷）アジア諸地域と道教』、東京：雄山閣、2001、頁238~254）
- 野村卓美「『清浄法行經』の研究：釈迦が派遣した三菩薩と真丹の三聖人」（『文芸論叢』81（2013）、頁32~45）
- 蜂屋邦夫「北周・道安〈二教論〉注釈」（『東洋文化』62（1982）、頁175~212）
- 原田二郎「老子想爾注の長生の理論」（『東大中哲文學會報』8（1983）、頁1~18）
- 平澤歩「王莽「奏群神為五部兆」の構造——劉歆三統理論との類似について



- て——」(池田知久、水口拓壽編『中國傳統社會における術數と思想』所収、東京：汲古書院、2016、頁 105~120)
- ピーター・ニッカーソン、澤章敏訳「中国の中世初期における鬼神観と官僚制——道教の宇宙論における六天について——」(山田利明・田中文雄編『道教の歴史と文化』所収、東京：雄山閣出版、1998、頁 197~210)
- 福永光司「道教と仏教——神学教義の相互影響——」(『東洋学術研究』27 (1988)、頁 1~10)
- 福井康順「葛氏道の研究」(『東洋思想研究：早稲田大學東洋思想研究室年報 (第五)』、東京：岩波書店、1954、頁 44~86)
- 藤善真澄「王維と仏教——唐代士大夫崇仏への一瞥」(『東洋史研究』24 (1965)、頁 54~86)
- 藤原高男「老子解重玄派考」(『漢魏文化』2 (1961)、頁 32~49)
- 藤井淳「姚(功+言)撰『三教不斉論』(石山寺所蔵)写本の翻刻」(『密教文化研究所』24、(2011)、頁 1~46)
- 堀池信夫「二つの妙本——『老子玄宗注』考——」(宮澤正順博士古稀記念論文集刊行会編『宮澤正順博士古稀記念論文集』所収、第一部、青史出版社、2004、頁 1~13)
- 堀池信夫「『注』の「妙本」・『疏』の「妙本」——唐玄宗『老子注疏』への一視点」(坂出祥伸先生退休記念論集刊行会編『中国思想における身体・自然・信仰——坂出祥伸先生退休記念論集』所収、東京：東方書店、2004、頁 635~652)
- 堀池信夫「「妙本」の位置——唐玄宗『老子注』の一特質」(『中国文化』60、(2002) 頁 25~33)
- 前田繁樹「老子の行方」(福井文雅編『東方学の新視点』所収、東京：五曜書房、2003、頁 409~432)
- 松本浩一「仏教道教史研究」(『日本宋史研究の現状と課題——1980年代以降を中心に——』所収、東京：汲古書院、2010、頁 213~236)
- 松村巧「有と無」(池田秀三ら執筆『(岩波講座・東洋思想第十四卷) 中国宗教思想 2』所収II3、東京：岩波書店、1990)、頁 74~97)
- 丸山宏「道教儀礼の出官啓事に関する諸問題」(坂出祥伸先生退休記念論集刊行会編『中国思想における身体・自然・信仰——坂出祥伸先生退休記念論集』所収、頁 441~469)
- 三浦國雄ら編『【講座道教】第三卷 道教の生命観と身体論』東京：雄山閣出版、2000
- 南昌宏「鄭玄の感生帝説：周の始祖説話を中心として」(『中国研究集刊』11 (1992)、頁 44~66)

- 南澤良彦「王肅の政治思想——「感生帝説」批判の背景——」（『中国思想史研究』10（1987）、頁37~62）
- 麥谷邦夫「陶弘景年譜考略（上）」（『東方宗教』47（1976）、頁30~61）
- 麥谷邦夫「陶弘景年譜考略（下）」（『東方宗教』48（1976）、頁56~83）
- 麥谷邦夫「「黄庭内景経」試論」（『東洋文化』62（1982）、頁29~59）
- 麥谷邦夫「『老子想爾注』について」（『東方學報（京都）』57（1985）、頁75~107）
- 麥谷邦夫「唐・玄宗『道德真経』注疏における「妙本」について」（秋月観暎編『道教と宗教文化』所収、東京：平河出版社、1987、頁299~314）
- 麥谷邦夫「道と氣と神——道教教理における意義をめぐって——」（『人文學報』65、（1989）、頁93~106）
- 麥谷邦夫「唐・玄宗御注「道德真経」および疏撰述をめぐる二、三の問題」（『東方學報』62、（1990）、頁209~232）
- 麥谷邦夫「『大洞真経三十九章』をめぐって」（吉川忠夫編『中國古道教史研究』所収、京都：同朋舎出版、1992、頁55~87）
- 麥谷邦夫「梁天監十八年紀年銘墓磚と天監年間の陶弘景」（礪波護編『六朝隋唐期の文物』所収、京都：京都大學人文科學研究所、1993、頁291~314）
- 麥谷邦夫「六朝隋唐期道教における「心」略論」（中村璋八編『中国人と道教』所収、東京：汲古書院、1998、頁209~220）
- 麥谷邦夫「唐代老子注釈学と仏教」（荒木典俊編著『北朝隋唐中国仏教思想史』所収、京都：法藏館、2000、頁456~474）
- 麥谷邦夫「『太上老君説常清靜経』考——杜光庭注との關連において——」（吉川忠夫編『（京都大學人文科學研究所研究報告）唐代の宗教』所収、京都：朋友書店、2000、頁459~485）
- 麥谷邦夫「華陽隱居への道——若き日の陶弘景と草創期の茅山」（坂出祥伸先生退休記念論集刊行会編『中国思想における身体・自然・信仰——坂出祥伸先生退休記念論集』所収、東京：東方書店、2004、頁367~381）
- 麥谷邦夫「吳筠事蹟考」（『東方學報』85（2010）、頁243~270）
- 村元健一「書評 佐川英治著『中国古代都城の設計と思想：円丘祭祀の歴史的展開』」（『唐代史研究』20（2017）、頁148~156）
- 目黒杏子「王莽「元始儀」の構造——前漢末における郊祀の変化」（『洛北史學』8（2006）、頁85~103）
- 目黒杏子「後漢郊祀制と「元始故事」」（『九州大学東洋史論集』36（2008）、頁34~67）
- 安居香山「感生帝説の展開と緯書思想」（『日本中国学会報』20（1968）、頁

63~78)

- 山田利明「道教神像の崇拜」(『東洋大学中国哲学文学科紀要』3(1995)、頁17~33)
- 山田利明「靈宝經と大乘思想：靈宝齋の思想的基盤」(『東洋大学中国哲学文学科紀要』6(1998)、頁51~68)
- 山田利明「魏文朗佛道造像碑」一則」(『東洋大学中国哲学文学科紀要』14(2006)、頁37~52)
- 山田俊「太玄真一本際經」について」(『東北大学文学部附属日本文化研究施設』30(1994)、頁55~89)
- 山崎宏「北周の通道觀について」(『東方宗教』54(1979)、頁1~13)
- 吉川忠夫「静室」考」(『東方學報』59(1987)、頁125~162)
- 吉川忠夫「本と末」(池田秀三ら執筆『岩波講座・東洋思想第十四卷)中国宗教思想2』所収、東京：岩波書店、1990、154~164)
- 吉川忠夫「内と外」(福永光司ら執筆『岩波講座・東洋思想第十三卷)中国宗教思想1』所収II、東京：岩波書店、1990、頁266~278)
- 吉川忠夫「王遠知傳」(『東方學報』62(1990)、頁69~98)
- 吉川忠夫「唐代巴蜀における佛教と道教」(同氏編『唐代の宗教』II、京都：朋友書店、2000、頁133~157)
- 吉川忠夫「六朝末隋唐初の儒林と佛教」(荒木典俊編『北朝隋唐中国仏教思想史』所収、京都：法藏館、2000、頁427~455)
- 横手裕「道教像・道教史像所感一斑」(『創文』407(1999)、頁15~17)
- 横手裕「道士と道觀」(田中文雄ら編『講座道教』第二卷 道教の教団と儀礼』所収第3章、東京：雄山閣出版、2000、頁53~71)
- 横手裕「小林正美著『唐代の道教と天師道』」(『東方宗教』103(2004)、頁96~100)
- 横手裕「道教における性説の諸相」(堀池信夫等編『道教研究の最先端』所収、東京：大河書房、2006年、頁64~81)
- 横手裕「道教思想史研究をめぐって」(『中国——社会と文化』22(2007)、頁269~269)
- 李劍楠「道教神仙系譜『洞玄靈宝真靈位業図』について」(『中國哲學論集』37(2012)、頁20~57)
- 「六朝・隋唐時代の道佛論争」研究班「笑道論」訳注」(『東方學報』60、(1988)、頁481~680)
- 渡邊義浩「鄭箋の感生帝説と六天説」(同氏編『兩漢における詩と三伝』第三部三、東京：汲古書院、2007、頁415~432)
- Anna Seidel「漢代における老子の神格化について」(吉岡義豊、Michel

Soymie 編『道教研究（第三冊）』所収、東京：豊島書房、1968、頁 35~36)

Rolf A. Stein 著、川勝義雄訳「紀元二世紀の政治＝宗教的道教運動について」(吉岡義豊、Michel Soymie 編『道教研究（第二冊）』所収、東京：昭森社、1967、頁 5~113)

【二次資料（著書・中国語）】(著者名ピンインのアルファベット順)

Anna Seidel 著、呂鵬志、陳平ら訳『西方道教研究編年史』北京：中華書局、2002

蔡宗憲『中古前期的交聘與南北互動』臺北縣板橋市：稻鄉出版社、2008

陳國符『道藏源流考』台北：古亭書屋、1975

陳國符『道藏研究論文集』上海：上海古籍出版社、2004

陳麗桂『秦漢時期的黃老思想』臺北：文津出版社、1997

陳寅恪『隋唐制度淵源略論稿（外二種）』石家莊：河北教育出版社、2002

陳寅恪『金明館叢稿初編』臺北：里仁書局、1981

陳弱水『唐代文士與中國思想的轉型』、臺北：臺大出版中心、2016

陳弱水『公共意識與中國文化』臺北：聯經出版公司、2005

陳鼓應編『道家文化研究（『玄學與重玄學』專號）第十九輯』北京：生活・讀書・新知三聯書店、2002

陳燕梅『六朝官方吉禮祀議及施行之源流考』臺北：學生書局、2018

陳垣『南宋初河北道教新考』北京：中華書局、1962

陳垣『陳援菴先生全集 專著（三）、（四）』臺北：新文豐出版公司、1993

程樂松『中古道教類書與道教思想』北京：宗教文化出版社、2017

程樂松『身體、不死與神祕主義：道教信仰的觀念史視角』北京：北京大學出版社、2017

大淵忍爾著、雋雪艷、趙蓉譯『敦煌道經（目錄編）上・下』濟南：齊魯書社、2016

傅樂成『漢唐史論集』臺北：聯經出版公司、1977

顧頡剛『秦漢的方士與儒生』上海：上海古籍出版社、1998

甘懷真『皇權、禮儀與經典詮釋：中國古代政治史研究』上海：華東師範大學出版社、2008

葛劍雄編『中國人口史：導論、先秦至南北朝時期（第一冊）』上海：復旦大學出版社、2002

葛兆光『道教與中國文化』上海：上海人民出版社、1987

葛兆光『中國思想史（三卷）』上海：復旦大學出版社、2000

- 葛兆光『屈服史及其他：六朝隋唐道教的思想史研究』北京：生活·讀書·新知三聯書店、2003
- 郭樹森ほか『天師道』（上海：上海社會科學出版社、1990
- 黃釗編『道家思想史綱』湖南：湖南師範大學出版社、1991
- 黃永鋒『道教服食技術研究』北京：東方出版社、2008
- 侯旭東『北朝村民的生活世界：朝廷、州縣與村里』北京：商務印書館、2005
- 侯旭東『五、六世紀北方民眾佛教信仰：以造像記為中心的考察（增訂本）』北京：社會科學文獻出版社、2015
- 胡文和『四川道教仙教石窟藝術』成都：四川人民出版社、1994
- 胡文和『中國道教石刻藝術史（上、下）』北京：高等教育出版社、2004
- 姜伯勤『敦煌藝術宗教與禮樂文明：敦煌心史散論』北京：中國社會科學出版社、1996
- 姜守誠『《太平經》研究——以生命為中心的綜合考察』北京：社會科學文獻出版社、2007
- 紀贇『慧皎《高僧傳》研究』上海：上海古籍出版社、2009
- 康樂『從西郊到南郊：國家祭典與北魏政治』臺北縣：稻禾出版社、1995
- 李淞『長安藝術與宗教文明』北京：中華書局、2002
- 李淞『中國道教美術史（第一卷）』長沙：湖南美術出版社、2012
- 李淞『神聖圖像：李淞中國美術史文集』北京：人民出版社、2016
- 李能和輯述、孫亦平校注『朝鮮道教史』濟南：齊魯書社、2016
- 李大華、李剛、何建明『隋唐道家與道教』北京：人民出版社、2011
- 李申『隋唐三教哲學』成都：巴蜀書社、2007
- 李小榮校箋『弘明集校箋』上海：上海古籍出版社、2013
- 李小榮『《弘明集》《廣弘明集》論述稿』成都：巴蜀書社、2005
- 李剛『重玄之道開啟眾妙之門：道教哲學論稿』成都：巴蜀書社、2005
- 呂澂『呂澂佛學論著選集』濟南：齊魯出版社、1996
- 呂春盛『關隴集團的權力結構演變——西魏北周政治史研究』臺北：稻鄉出版社、2002
- 呂鵬志『唐前道教儀式史綱』北京：中華書局、2008
- 呂思勉『兩晉南北朝史（下）』上海：上海古籍出版社、2005
- 林富士『中國中古時期的宗教與醫療』臺北：聯經出版、2008
- 林富士『漢代的巫者』臺北：稻鄉出版社、1988
- 龍顯昭、黃海德他編『巴蜀道教碑文集成』、成都：四川大學出版社、1997
- 柳存仁『道教史探源』北京：北京大學出版社、2000
- 劉屹『六朝道教古靈寶經的歷史學研究』上海：上海古籍出版社、2018
- 劉屹『敦煌道經與中古道教』蘭州：甘肅教育出版社、2013

- 劉屹『神格與地域——漢唐間道教信仰世界研究』上海：上海人民出版社、2011
- 劉屹『敬天與崇道：中古經教道教形成的思想史背景』北京：中華書局、2005
- 劉屹『漢唐道教的歷史與文獻研究』臺北：博陽文化事業、2015
- 劉林魁『《廣弘明集》研究』北京：中國社會科學出版社、2011
- 劉立夫『弘道與明教：《弘明集》研究』北京：中國社會科學出版社、2004
- 劉昭瑞『考古發現與早期道教研究』北京：文物出版社、2007
- 劉淑芬『中古的佛教教與社會』上海：上海古籍出版社、2008
- 劉師培『劉申叔先生遺書（三）』臺北：大新書局、1965
- 劉康樂『中古道官制度研究』成都：巴蜀書社、2013
- 盧國龍『道教哲學』北京：華夏出版社、1997
- 盧國龍『中國重玄學』北京：人民中國出版社、1993
- 盧央『葛洪評傳』南京：南京大學出版社、2006
- 雷聞『郊廟之外——隋唐國家祭祀與宗教』北京：生活·讀書·新知三聯書店、2009
- 羅宏才『中國佛道造像碑研究：以關中地區為考察中心』上海：上海大學出版社、2008
- 蒙文通著、蒙默編『蒙文通全集（五）』成都：巴蜀書社、2015
- 牟宗三『才性與玄理』臺北：臺灣學生書局、1974
- 皮慶生『宋代民眾祠神信仰研究』上海：上海古籍出版社、2008
- 錢穆『兩漢經學今古文平議』北京：商務印書館、2015
- 季羨林編『胡適全集』合肥：安徽教育出版社、2003
- 卿希泰『中國道教思想史綱（第二卷）』成都：四川人民出版社、1985
- 卿希泰編『中國道教史（第二卷）』成都：四川人民出版社、1992
- 卿希泰編『中國道教史（修訂本）第二卷』成都：四川人民出版社、1996
- 卿希泰編『中國道教思想史（第二卷）』北京：人民出版社、2009
- 饒宗頤『老子想爾注校箋』香港：東南印書館、1956
- 任繼愈編『中國道教史』上海：上海人民出版社、1990
- 任繼愈編『中國道教史（增訂本）上卷』北京：中國社會科學出版社、2001
- 四川大學宗教研究所編『道教神仙信仰研究（上冊）』臺北：中華道統出版社、2000
- 孫亦平『道教在韓國』南京：南京大學出版社、2016
- 孫亦平『杜光庭評傳』南京：南京大學出版社、2005
- 孫以楷主編、張成權『道家與中國哲學（魏晉南北朝卷）』北京：人民出版社、2004
- 孫以楷主編、張成權『道家與中國哲學（隋唐五代卷）』北京：人民出版社、

2004

- 董恩林『重玄思辨中的理身理國之道』北京：中國社會科學出版社、2002  
釋恆清『佛性思想（修訂二版）』臺北：東大圖書公司、2012  
釋印順『攝大乘論講記』北京：中華書局、2011  
湯用彤『魏晉玄學論稿』北京：人民出版社、1957  
湯用彤『漢魏兩晉南北朝佛教史』北京：崑崙出版社 2005（1938 初版）  
唐長孺『魏晉南北朝史論拾遺』北京：中華書局、1983  
唐長孺『唐長孺文存』上海：上海古籍出版社、2006  
田余慶『東晉門閥政治』北京：北京大學出版社、2012、5 版  
王卡『敦煌道教文獻研究：綜述·目錄·索引』北京：中國社會科學出版社、

2004

- 王卡『道教經史論叢』成都：巴蜀書社、2007  
王皓月『析經求真：陸修靜與靈寶經關係新探』北京：中華書局、2017  
王平『太平經研究』臺北：文津出版社、1995  
王承文『敦煌古靈寶經與晉唐道教』北京：中華書局、2002  
王承文『漢晉道教儀式與古靈寶經研究』北京：中國社會科學出版社、2017  
王宗昱『《道教義樞》研究』上海：上海文化出版社、2001  
王家祐『道教論稿』、成都：巴蜀書社、1987  
王家葵『陶弘景叢考』濟南：齊魯書社、2003  
王青『魏晉南北朝時期的佛教信仰與神話』北京：中國社會科學出版社、2001  
汪小洋ら『中國道教造像研究』上海：上海大學出版社、2010  
王永平『道教與唐代社會』北京：首都師範大學出版社、2002  
巫鴻『禮儀中的美術（下卷）』北京：生活·讀書·新知三聯書店、2013  
巫鴻『黃泉下的美術』北京：生活·讀書·新知三聯書店、2013  
蕭登福『六朝道教靈寶派研究』臺北：新文豐出版公司、2008  
小林正美著、李慶訥『六朝道教史研究』成都：四川人民出版社、2001  
小林正美著、王皓月譯『中國的道教』濟南：齊魯書社、2010  
小林正美著、王皓月、李之美譯『唐代的道教與天師道』濟南：齊魯書社、  
2012  
小林正美著、王皓月譯『六朝佛教思想研究』濟南：齊魯書社、2013  
小林正美著、王皓月譯『新範式道教史的建構』濟南：齊魯書社、2014  
謝世維『大梵彌羅：中古時期道教經典當中的佛教』臺北：台灣商務印書館、  
2013  
許抗生『僧肇評傳』南京：南京大學出版社  
熊十力『真唯識論』北京：中華書局、1985  
嚴靈峯『無求備齋學術論集』臺北：臺灣中華書局、1969

- 葉貴良『敦煌道經寫本與詞匯研究』成都：巴蜀書社、2007
- 楊鴻烈『中國法律思想史（上下）』臺北：臺灣商務印書館、1970
- 余英時『朱熹的歷史：世界宋代士大夫政治文化的研究』北京：生活·讀書·新知三聯書店、2004
- 趙貞『唐宋天文星占與帝王政治』北京：北京師範大學出版社、2016
- 趙益『六朝南方神仙道教與文學』上海：上海古籍出版社、2006
- 趙益『六朝隋唐道教文獻研究』南京：鳳凰出版社、2012
- 張繼禹『天師道史略』北京：華文出版社、1990
- 張勛燎、白彬著『中國道教考古（2）（3）』北京：線裝書局、2006
- 張澤珣『北魏道教造像碑藝術』香港：香港明石文化國際出版有限公司、2002
- 張澤珣『北魏關中道教造像記研究——附造像碑文錄』澳門：澳門大學、2009
- 張澤洪『步罡踏斗：道教祭祀儀典』成都：四川人民出版社、1994
- 張澤洪『道教齋醮符咒儀式』成都：巴蜀書社、1999
- 張澤洪『道教神仙信仰與祭祀儀式』臺北：文津出版社、2003
- 張文昌『制禮以教天下唐宋禮書與國家社會』臺北：臺大出版中心、2012
- 鄭燦山『東晉唐初道教道德經學：關於道德經與重玄思想暨太玄部之討論』臺北：學生書局、2009
- 鄭燦山『六朝隋唐道教文獻研究』臺北：新文豐出版、2014
- 鄭基良『魏晉南北朝形盡神滅或形盡神不滅的思想論證』臺北：文史哲出版社、2002
- 鐘國發『陶弘景評傳』南京：南京大學出版社、2005
- 鍾肇鵬『讖緯略論』瀋陽：遼寧教育出版社、1991
- 周大興『自然·名教·因果：東晉玄學論集』臺北：中央研究院中國文哲研究所、2004
- 周西波『杜光庭道教儀范之研究』臺北：新文豐出版社、2003
- 朱溢『事邦國之神祇：唐至北宋吉禮變遷研究』上海：上海古籍出版社、2014
- 朱越利編『理論·視角·方法——海外道教學研究』濟南：齊魯書社、2013
- Zürcher, Erik 著、李四龍、裴勇ら訳『佛教征服中國：佛教在中國中古早期的傳播與適應（二版）』南京：江蘇人民出版社、2017

【二次資料（論文・書評等、中国語）】（著者名ピンインのアルファベット順）

- 曹凌「倉本尚徳《北朝仏教造像銘研究》」（『中國中古史集刊』第四輯（2017）、頁 441~458）
- 陳登武「“復仇”——國家公權與私刑的兩難」（『從人間世到幽冥界：唐代



- 的法治、社會與國家』第六章、北京：北京大學出版社、2007、頁 224~255)
- 陳世驥「“想爾”老子道經燉煌殘卷論證」(『清華學報』新第一卷第二期(1957)、頁 41~62)
- 陳文華「關於「五千文」的來源——謹就正於嚴靈峯先生」(『民主評論』15:15 (1964)、頁 13~16)
- 陳文華「為五千文的來源敬答嚴靈峯先生」(『民主評論』16:3 (1965)、頁 8~11)
- 定源「中華書局版《高僧傳》商榷」(『版本目錄學研究』第 3 輯(2011)、頁 331~348)
- 方立天「僧肇評傳」(『魏晉南北朝佛教論叢』、北京：中華書局、1982、頁 111~153)
- 葛兆光『屈服史及其他：六朝隋唐道教的思想史研究』、北京：生活·讀書·新知三聯書店、2003、
- 葛兆光「攀龍附鳳的追認？——從小林正美《唐代の道教と天師道》討論佛教道教宗派研究的方法」(榮新江主編『唐研究(第十卷)』所收、北京：北京大學出版社、2004、頁 29~44)
- 紀志昌「南齊張融的道佛交涉思維試釋——以《門律·通源》中與周顒的對話為主」(『中國文哲研究集刊』35 (2009)、頁 45~88)
- 李豐楙「傳承與對應：六朝道經中「末世」說的提出與衍變」(『中國文哲研究集刊』9 (1996)、頁 91~130)
- 李豐楙「六朝道教的終末論：末世、陽九百六與劫運說」(『道家文化研究(第九輯)』所收、上海：上海古籍出版社、2000、頁 82~99)
- 李豐楙「北周建德元年李元海等造元始天尊碑記及妓樂圖考」(李焯然、陳萬成編『道苑繽紛錄』所收、香港：香港商務印書館、2002、頁 52~90)
- 李豐楙「供養與祈福：北魏道教造像碑的圖象與銘文初探」(國立歷史博物館研究組編『道教與文化學術研討會論文集』所收、國立歷史博物館、2001、頁 93~120)
- 李蘇書「論古靈寶經與中古道教——以道與至尊神為考察核心」(『史原』總 22、復刊 1 (2010)、頁 63~152)
- 李蘇書「論古上清經中的道與至尊神」(『早期中國史研究(第二卷)』2:2 (2010)、頁 67~108)
- 李玉珉「山東早期佛教造像考：劉宋至北魏時期」(『故宮學術季刊』22:1、2004、頁 99~144)
- 黎志添「從葛玄神仙形像看中古世紀道教與地方神仙傳說」(『中國文化研究所學報』新第十期(2001)、頁 492~509)
- 黎志添「南朝天師道《正一法文經》初探」(陳鼓應、馮達文主編『道家與道

- 教·第二屆國際學術研討會論文集（道教卷）』所收、廣州：廣東人民出版社、2001、頁 162~180)
- 黎志添「天地水三官信仰與早期天師道治病解罪儀式」(『臺灣宗教研究』2:1 (2002)、頁 1~30)
- 黎志添「南宋黃籙齋研究：以金允中「靈寶大法」為例」(同氏編著『道教圖像、考古與儀式：宋代道教的演變與特色』所收、香港：中文大學出版社、2016、頁 209~234)
- 林富士「歐美地區的道教研究概述（1950~1994）」(『台灣宗教學會通訊』6 (2000)、頁 29~88)
- 林富士「臺灣地區的道教研究總論及書目（1945~2000）」(『古今論衡』16 (2007)、頁 4~72)
- 林麗貞「魏晉道教研究概況分析及主要學術論著評介」(陳鼓應、馮達文主編『道家與道教·第二屆國際學術研討會論文集（道教卷）』所收、廣州：廣東人民出版社、2001、頁 98~113)
- 林聖智「盛唐四川地區的道教摩崖造像：以安岳玄妙觀為主的考察」(康豹、劉淑芬主編『信仰實踐與文化調適（上冊）』所收、臺北：中央研究院、2013、頁 309~362)
- 林聖智「道教造像與地域社會：四川綿陽玉女泉隋至初唐道教摩崖造像」(『中古中國研究』1 (2017)、頁 151~190)
- 林永勝「乞重玄之關——論重玄派研究之爭議焦點」(『清華學報』新 34:2 (2005)、頁 383~424)
- 林永勝「六朝道教三一論的興起與轉折——以存思技法為線索」(『漢學研究』26:1 (2008)、頁 67~102)
- 魯迅「魏晉風度及文章與藥及酒之關係」(『魏晉風度及其他』上海：上海古籍出版社、2010、頁 170~182)
- 劉國鈞「老子神話考略」(吳光正、鄭紅翠、胡元翎主編『想像力的世界——二十世紀“道教與古代文學”論叢』所收、哈爾濱：黑龍江人民出版社、2006、頁 16~38)
- 劉韋廷「元代佛道辯證探微：以《大元至元辯偽錄》為主之討論」(『輔仁宗教研究』33 (2016)、頁 41~70)
- 劉屹「寇謙之的家世與生平」(湛如主編『華林（第二卷）』所收、北京：中華書局、2002、頁 271~281)
- 劉屹「寇謙之與南方道教的關係」(『中國中古史研究』2 (2003)、頁 71~99)
- 劉屹「寇謙之身後的北天師道」(『首都師範大學學報(社會科學版)』1(2003)、頁 15~25)
- 劉屹「論二十世紀的敦煌道教文獻研究」(季羨林、饒宗頤、周一良主編『敦

- 煌吐魯番研究（第七卷）』所收、北京：中華書局、2004、頁 199~222)
- 劉屹「近年來道教研究對中古史研究的貢獻」(『中國史研究動態』8 (2004)、頁 12~20)
- 劉屹「《唐代の道教と天師道》」(榮新江主編『唐研究（第十卷）』所收、北京：北京大學出版社、2004、頁 598~604)
- 劉屹「晉宋天師道史研究之一：以對“奉道世家”的考察為中心」(程恭讓編『天問（丁亥卷）』所收、上海：江蘇人民出版社、2008、頁 213~240)
- 劉屹「「元始系」與「仙公系」靈寶經的先後問題：以「古靈寶經」中的「天尊」和「元始天尊」為中心」(『敦煌學』27 (2008)、頁 275~291)
- 呂鵬志「早期靈寶經的天書觀」(郭武編『道教教義與現代社會國際學術研討會論文集』所收、上海：上海古籍出版社、2003、頁 571~597)
- 呂鵬志「天師道旨教齋考（上篇）」(『中央研究院歷史語言研究所集刊』80:3 (2009)、355~402)
- 呂鵬志「天師道旨教齋考（下篇）」(『中央研究院歷史語言研究所集刊』80:4 (2009)、507~553)
- 羅柏松 (James Robson)、歐陽楠譯「在佛教研究之邊界上東亞佛教研究中概念和方法論的轉型」(復旦大學文史研究院編『佛教史研究的方法與前景』所收、北京：中華書局、2013、頁 89~109)
- 羅宏才「佛、道造像碑師匠題名、位序的探討與“北地樣式”的初步研究」(『考古與文物』6 (2007)、頁 75~84)
- 麥谷邦夫「南北朝隋唐初道教教義學管窺——以“道教義樞”為線索」(辛冠傑等編『日本學者論中國哲學史』所收、北京：中華書局、1986、頁 267~323)
- 白文固「歷代僧道人數考論」(『普門學報』9 (2002)、頁 87~112)
- 繆哲「《魏文朗造像碑》考釋」(『美術史研究集刊』21 (2006)、頁 1~66)
- 施舟人 (Kristofer Schipper)「道教的清約」(『法國漢學（第七輯）』所收、北京：中華書局、2002、頁 149~167)
- 宋立道「《弘明集》所反映的佛教觀念」(『中華佛學學報』12 (1999)、頁 35~51)
- 神塚淑子「天尊像、元始天尊像的問世、流行與靈寶經」(李淞主編『道教美術新論』所收、山東美術出版社、2008、頁 67~78)
- 唐長孺「錢塘杜治與三吳天師道的演變」(武漢大學歷史系魏晉南北朝隋唐史研究室編『魏晉南北朝隋唐史資料（第十二冊）』所收、武昌：武漢大學、1993、頁 1~11)
- 王明「黃庭經考」(『中央研究院歷史語言研究所集刊』20、(1948)、頁 539~576)
- 王承文「南朝天師道“七部經書”分類體制考釋」(『文史』1 (2008)、頁 83~

117)

- 王承文「道經的降世和道經分類體系的形成及其意義」”Rituels, Pantheons et Techniques Histoire,”18~21(Dec, 2006), pp.1~80
- 王文泉「從《弘明集》《廣弘明集》看魏晉南北朝道、佛間的訾應」(『康寧學報』1:2(1999)、頁29~45)
- 王仲堯「僧睿、僧肇、周顛合論——中國佛教般若學之理論建設」(『中國文化月刊』267(2002)、頁41~62)
- 王宗昱「道教的“六天”說」(陳鼓應編『道家文化研究(第十六輯)』所收、北京:生活·讀書·新知三聯書店、1999、頁22~49)
- 謝世維「聖典與傳譯:六朝道教經典中的「翻譯」」(『中國文哲研究集刊』31(2007)、頁185~233)
- 謝世維「聖典與傳授:仙公系靈寶經系譜試析」(國立臺中技術學院應用中文系編『道教與民俗學術研討會論文集』所收、臺中:國立臺中技術學院應用中文系、2007、頁401~417)
- 謝世維「道教傳經神話的建立與轉化:以天真皇人為核心」(『清華學報』38:2(2008)、頁291~326)
- 顏娟英「佛教造像緣起與瑞像的發展」(康豹、劉淑芬主編『信仰、實踐與文化調適(上冊)』所收、臺北:中央研究院、2013、頁271~307)
- 楊聯陞「老君音誦誡經校釋:略論南北朝時代的道教清整運動」(『中央研究院歷史語言研究所集刊』28(1956)、頁17~54)
- 尹翠琪「《道藏》扉畫的版本、構成與圖像研究」(『國立臺灣大學美術史研究集刊』43(2017)、頁1~79)
- 張超然「由仙而真:《紫陽真人內傳》所標示的新修道路逕」(盧蕙馨、陳德光、林長寬主編『宗教神聖:現象與詮釋』所收、臺北:五南圖書、2003、頁260~326)
- 張超然「入道與行道:趙昇一系天師教團的黃赤教法」(『臺灣宗教研究』(2004)、頁49~87)
- 張超然「道教靈寶經派度亡經典的形成:從《元始五老赤書玉篇真文天書經》到《洞玄無量度人上品妙經》」(『輔仁宗教研究』22(2011)、頁29~62)
- 張超然「早期道教喪葬儀式的形成」(『輔仁宗教研究』20(2010)、頁27~66)
- 張文良「姚(功+言)著『三教不齊論』考」(『輔仁宗教研究』25、(2012)、頁33~49)
- 鄭燦山「從諸子傳說到道教聖傳:先秦兩漢老子的形象及其意義」(李豐楙、廖肇亨主編『聖傳與詩禪:中國文學與宗教論集』所收、臺北:中央研究院中國文哲研究所、2007、頁309~366)
- 周玟觀「「教唯有二,寧得有三」——論北周釋道安《二教論》「外儒內佛說」

- 之意涵」(『中國文學研究』23(2006)、頁55~88)
- 祝逸雯「聚氣回靈、九轉生神：蔣叔輿《無上黃籙大齋立成儀》中的鍊度儀」(黎志添編著『道教圖像、考古與儀式：宋代道教的演變與特色』所收、香港：中文大學出版社、2016、頁235~266)
- 朱維錚「經學史：儒術獨尊的轉折過程」(上海圖書館編『上海圖書館建館三十周年紀念論文集(1952-1982)』所收、上海：上海圖書館、1983、頁291~305)
- 佐藤智水「北朝造像銘考」(劉俊文編『日本中青年學者論中國史(六朝隋唐卷)』所收、上海：上海古籍出版社、1995、頁56~115)
- Anna Seidel 著、劉屹訳「國之重寶與道教秘寶：識緯所見道教的淵源」(『法國漢學(第四卷)』所收、北京：中華書局、1999、頁42~127)
- Max Kaltenmark 「關於道教術語“靈寶”的筆記」(『法國漢學』編委會編『法國漢學(第二輯)』所收、北京：清華大學出版社、1997、頁1~27)
- Michel Soympié 著・辛岩訳「道教的十日齋」(『法國漢學(第二輯)』所收、北京：清華大學、1999、頁28~49)

【二次資料(英語)】(著者名アルファベット順)

- Abe, Stanley K. "Heterological Vision: Northern Wei Daoist Sculpture from Shaanxi Province." *Cahiers d'Extrême-Asie*, 9 (1996~1997), pp. 69~83.
- Abe, Stanley K. "Chapter Five Alternatives," *Ordinary images* (Chicago: University of Chicago Press, 2002)
- Andersen, Poul. *The method of holding the three ones: a Taoist manual of meditation of the fourth century A.D.* (London and Malmo: Cruzon Press, 1980)
- Arther, Shawn. "Early Daoist Dietary Practices: Examining Ways to Health and Longevity" (Lanham: Lexington Books, 2013)
- Bokenkamp, Stephen R. "Sources of the Ling-pao Scriptures," in Michel Strickmann, ed. *Tantric and Taoist Studies in Honor of R.A. Stein*, vol. 2 (Bruxelles: Instute Belge des Hautes Etudes Chinoises, 1983), pp. 434~486.
- Bokenkamp, Stephen R. *Early Daoist scriptures* (Berkeley: University of California Press, 1997)
- Bokenkamp, Stephen R. "The Yao Boduo Stele as Evidence for the "Dao~Buddhism" of the Early Lingbao Scriptures." *Cahiers d'Extrême-Asie*, 9 (1996~1997), pp. 55~67.
- Bokenkamp, Stephen R. "Lu Xiuqing, Buddhism, and the First Daoist Canon,"

- in Scott Pearce, Audrey Spiro, and Patricia Ebrey ed., *Culture and Power in the Reconstitution of the Chinese Realm, 200-600* (Cambridge: Harvard University Press, 2001), pp. 181~199.
- Bokenkamp, Stephen R. “The Salvation of Laozi: Images of the Sage in the Lingbao Scriptures, the Ge Xuan Preface, and the “Yao Boduo Stele” of 496 C.E.” (李焯然、陳萬成編『道苑繽紛錄』所收、香港：香港商務印書館、2002、頁 287~314)
- Bokenkamp, Stephen R. “The Silkworm and Bodhi Tree: The Lingbao Attempt to Replace Buddhism in China and Our Attempt to Place Lingbao Daoism,” in John Lagerwey, ed. *Religion and Chinese Society: Ancient and Medieval China* (vol.1) (Hong Kong: The Chinese University Press, 2004), pp. 317~339.
- Bokenkamp, Stephen R. *Ancestors and Anxiety: Daoism and the Birth of Rebirth in China* (Berkeley: University of California Press, 2007)
- Bol, Peter K. “*This culture of ours*”: *Intellectual transitions in T'ang and Sung China* (Stanford California: Stanford University Press, 1992)
- Bol, Peter K. *Neo-Confucianism in History* (Cambridge, Mass.: Distributed by Harvard University Press, 2008)
- Campany, Robert. “*On the Very Idea of Religions-In the Modern West and Early Medieval China*,” *History of Religion*, 42:4 (2003), pp.287~319.
- Chen, Jo-shui (陳弱水) “Anti – Buddhism and Intellectual Conditions in Sixth and Seventh Century China” (周質平、Willard J.Peterson 編『國史浮海開新錄：余英時教授榮退論文集』、臺北：聯經出版公司、2002、頁 97~120)
- Ebrey, Patricia Buckley. *The aristocratic families of early imperial China: a case study of the Po-Ling Ts'ui family* (New York: Cambridge University Press, 1978)
- Eskildsen, Stephen. *Daoism, Meditation, and the Wonders of Serenity* (New York: State University of New York Press, 2015)
- Isabelle Robinet, translated by Phyllis Brooks, *Taoism: Growth of a Religion* (Stanford, California: Stanford University Press, 1997)
- Kleeman, Terry F. “*Great perfection=大成: religion and ethnicity in a Chinese millennial kingdom*” (Honolulu: University of Hawai'i Press, 1998).
- Kleeman, Terry F. “Reconstructing China’s Religious Past: Textual Criticism and Intellectual History,” *Journal of Chinese Religions*, 32 (2004), pp.29~45.

- Kleeman, Terry F. "Daoism in the third Century," in Florian C. Reiter ed. *Purposes, Means and Convictions in Daoism: A Berlin Symposium* (Wiesbaden: Harrassowitz, 2007), pp.11~28.
- Kleeman, Treey F. *Celestial Masters: History and Ritual in Early Daoist Communities* (Cambridge, Mass.: Harvard University Asia Center, 2016)
- Kohn, Livia. *Laughing at the Tao* (Princeton: Princeton University Press, 1995)
- Kohn, Livia. *God of the Dao, Lord Lao in History and Myth* (Ann Arbor: Center for the Chinese Studies, University of Michigan, 1998)
- Kohn, Livia. and LaFargue, Michael eds. *Lao-tzu and the Tao-te-ching* (Albany, N.Y.: State University of New York Press, 1998)
- Kohn, Livia. ed. *Taoism Handbook* (Leiden:Boston: Brill, 2000)
- Kohn, Livia. *Monastic life in medieval Daoism: a cross-cultural perspective* (University of Hawai'i Press, 2003)
- Marinus Schipper Kristofer and Verellen, Franciscus eds., *The Taoist Canon: a historical companion to the Daozang* (vol.1~3) (Chicago: University of Chicago Press, 2004)
- Mather, Richard B. "K'ou Ch'ien~chih and the Taoist Theocracy at the Northern Wei Court, 425~451." in Holmes Welch and Anna Seidel eds. *Facets of Taoism* (New Haven: Yale University Press, 1979), pp.425~451.
- Mcmullen, David. *State and Scholars in T'ang China* (New York: Cambridge University Press, 1988).
- Pregadio, Fabrizio. eds. *The Encyclopedia of Taoism* (vol.1~3) (London, New York: Routledge, 2008)
- Puett, Michael. "Forming Spirits for the Way: The Cosmology of the Xiang'er Commentary to the Laozi," *Journal of Chinese Religions*, 32 (2004), pp.1~27.
- Robinet, Isabelle translated by F. Pas Julian and J. Girardot Norman, with a foreword by J. Girardot Norman, and a new afterword by Isabelle Robinet. *Taoist meditation: the Mao-shan tradition of great purity* (Albany: State University of New York Press, 1993)
- Seidel Anna. "The Image of the Perfect Ruler in Early Taoist Messianism: Lao~tzu and Li Hung." *History of Religions*, vol. 9. 2~3 (1969~1970), pp. 216~247.
- Stein, Rolf A. "Religious Taoism and Popular Religion from the Second to Seventh Centuries," in Holmes Welch and Anna Seidel eds., *Facets of Taoism* (New Haven: Yale University Press, 1979), pp.53~81.

Strickmann, Michel. "The Mao-shan Revelations: Taoism and the Aristocracy."

*T'oung Pao*, 63 (1977), pp.1~63.

Tillman, Hoyt. *Cleveland Confucian Discourse and Chu Hsi's Ascendancy*

(Honolulu: University of Hawaii Press, 1992)

Zürcher, Erik. "Buddhist Influence on Early Taoism," *T'oung Pao*, 66 (1980),

pp.84~147.



## 論文の内容の要旨

道教史において、二世紀から八世紀に至る數百年間は、儀式や教理などの各分野において大きな発展と整合が遂げられた時代であった。本論文は、儒教・道教・佛教の三教交渉の歴史において六朝隋唐期の道教が成し遂げた整合化の過程を、思想的な面に焦点を当てつつ、その原動力となった諸要素及び歴史的意義とともに明らかにしたものである。本論文の目的及び先行研究を明示した序論と、本論文の纏め並びに今後の展望を述べた終章の後、本論文中心部を構成する七章の概要は以下の通りである。

第一章は造像記、正史と道教を信奉している士人の作品、及び道教經典などの性格が異なる史料を通して、北朝道教における至尊神の變化を明らかにし、北朝道教の歴史を描き出してみた。本章の考察により、北朝道教は、信仰共同体の組織（五斗米道を受け継ぐ組織）を基盤として南方道教經典の教理思想（主に古靈寶經系經典が唱える救濟觀と古上清經系經典が重視する個人の修行法）を吸収し、さらにこれに基づいて、唐代の整合的な道教の基礎となったこと、および北朝道教における至尊神は太上老君から元始天尊へという大きな変化が起きたことが明らかになった。本章は現在所見の六朝隋唐期における道教造像石刻資料計 229 例を纏めて「六朝隋唐道教造像一覧表」を作成したが、百余年にわたった北朝期の造像（84 例）より、僅か三十八年で滅ぶ隋代での造像（66 例）活動の方が活発であったことがわかり、道佛二教像の数が激減することから、隋代の道佛両教、およびその信者のアイデンティティは、南北朝期を経て徐々に強まっていく傾向があることを指摘した。この現象は、北朝道教が教主を確立することによって求心力を高めるために、信仰上の整合をはかり、次第にまとまった形となっていったことを示唆する。

第二章は、『弘明集』『廣弘明集』に現れた佛教の道教批判の内容を手掛かりにして、その批判内容の類型と道教側の反応、及び後世に及ぼした影響について考察を行った。『弘明集』の全体を見渡せば、佛教側が当時の道教より、各方面で総力を挙げて対抗しようとしていた相手は、儒教であったことが分かる。それに対して、道教への態度は、佛教の優位性を主張しつつ、主に道教が重視する神仙術や儀礼に対して集中的に攻撃を加えるものであり、經典や教理に関してはそれほど問題にしていなかったことが看取できる。しかしながら、そのような状況は『廣弘明集』に至って一変し、そこでは道教の存在を強く意識しながら、儀礼・經典・道教史などの全般にわたる批判が展開されている。『弘明集』『廣弘明集』に見える道教批判は、当時の道教に多大な刺激を与えただけではなく、そこに現れる豊富な文献資料や批判論理及び批判の文体など、後世の護法者たちにとって指南書のような役割を果たしている。

即ち、六朝隋唐期における佛教が道教に対する認識を深めつつ、同時に道教批判の内容と手法も徐々に定型化されていたことになる。本章は『弘明集』『廣弘明集』はその長い道佛交渉の歴史の中で、護法者のデータベースのような役割を担ったことを明らかにした。

第三章は六朝佛教の各歴史段階における道教教理に対する理解の相違について考察を試みた。考察の結果、梁代に編纂された『弘明集』の道教教理の理解は、従来の『老子』の言説ならびに長生成仙思想に止まり、また、『弘明集』は当時江南地域に流行した上清経や靈宝経など新興の道教経典に対しては、あくまで経典の名前だけを取り上げ批判したに過ぎないことが明らかとなった。その理由は、当時の佛教の主たる論敵である儒教に比べ、全体として道教教理がまだその水準には達していなかったかからだと推測できる。道教が教理の強化と整合を行う契機は、まさにこのような背景に潜んでいると言えよう。しかし、百余年後に作られた『廣弘明集』では、道教教理が相手にされていなかった状況は一変した。六朝末期の道教は佛教の批判を受けつつ、佛教教理を吸収して道教教理に融合した結果、佛教にとって道教は無視できない一大勢力となった。佛教は道教の教理に反駁せざるを得ない状況に追い込まれたため、逆にその教理や経典を熟読して再度攻撃を行い、また新たな道佛の攻防が繰り返されるのである。こうした過程を経て、道教は佛教からの刺激や教理面での啓発を受けつつ、様々な模索をしながら徐々に自らの教理体系を構築したが、その過程において、頻繁に指摘される論理上の齟齬、すなわち教理上の瑕疵をどのように補完し克服するかは、六朝隋唐期道教の一貫した課題であった。

第四章は、教主不在という佛教の攻撃に対して、道教がいかにして克服し共通に認められる至尊神の信仰体系を作り出したかという過程を明らかにした。結論を簡潔にまとめれば以下のようなになる。一、隋代までに成立した道教経典の中で、「三清」という用語が道教の天界を指す場合が多いにもかかわらず、「玉清天・上清天・太清天」から構成される天界説はまだ定着していなかった。また、共通した至尊神の信仰体系はいまだ見出すことができない。二、隋唐期の道教においては、元始天尊・太上道君・太上老君という至尊神の信仰体系が形成されたが、この三柱の神霊を明確に「三清」と呼んだ形跡は見当たらない。一方、当時の文献資料及び出土文物によれば、元始天尊を強調し尊重する記述が非常に多いことが明らかになった。三、五代十国から南宋にかけての道教に関する資料からは、「三清」が明確に「天尊・道君・老君」のことを示す記述がよく見られ、各地の道観においても「三清」と名付ける建物が増加していったことが窺える。道教における三清の至尊神体系が、唐末五代期にその体系を構成する神格が徐々に確立し、遅くとも北宋以降には

名実ともに「三清」の至尊神体系およびそれを示す用語が広まり定着した。

第二章、第三章で指摘したように、道教の修行法として、特に食餌鍊丹の類いの伝統が偏見を持って見られ、常に非難の俎上に載せられたため、その打開策として思索されたのが、道性論と重玄思想である。第五章は隋代までのいわゆる重玄を説く諸子の『老子』注を中心に論考を進めた。検討した結果、現存する彼らの第一章「玄之又玄」に対する注釈はほとんど残っていない一方で、第十四章に関する注釈は比較的多く、そこには佛教三論学の論説を援用して、道教独自の教理の「三一」説を構築しようとする試みが確かに見られるものの、そこには重玄思想らしき記述は見当たらない。一方、『太玄真一本際経』の作者とされる隋代の道士である劉進喜が著した『老子』注にさえ、重玄思想を用いて解釈する痕跡が見られない。そこで、以上の考察結果を総合的に考えてみれば、重玄思想の始まりは、早くとも六世紀の南朝梁代までしか遡れないと指摘した。

第六章は敦煌に出土した各道経の写本の数において最も多い割合を占める『太玄真一本際妙経』と、高度な論理を取り上げて纏めた教理類書『道教義樞』という二つの隋唐代初期までの代表的な道教経典を考察対象とし、それぞれの経典が佛教教理、特に般若空観思想をいかに援用して自らの教理体系を構築しようとしたのかについて考察を行った。考察を通して明らかとなったように、隋代唐初期の一部の道教経典においては、般若空観思想を道教教理体系に導入した結果、得道の境地への理解が深められたことにもない、修行法もそれまで重視された食餌鍊丹のような肉体の不老不死を追求する固有の修行法とは全く異なる別の新しい修行体系、つまり心の解脱や思考の拘束から脱出することによって、道と合一するに至る境地を目指すという新たな形態の修行法が構築された。

第七章では、国のイデオロギーを代表する儒教の視点と儒道二教交渉史との視点から、祭祀儀礼を手掛かりにして儒道交渉の一面を検討した。六朝隋唐道教は儒教が前漢末期に確立した郊祀儀礼と漢帝国の行政文書系統とに基づき、道教自身の祭祀儀礼を創出したものの、儒教の祭祀伝統を「六天故氣」と位置づけ、これに対して道教の新たな「三天正法」の優位性を宣揚することで、儒教の影響から抜け出そうと企図した。また、五斗米道の祭酒や道士が、上章など独自の儀式を執り行う地位を確保して、儒教の介入を排除し、祭祀儀礼における道教の絶対的権力を行使することを保証したのである。一方、上章や出官といった、道教神霊とコミュニケーションを行う重要な儀式では、儒教の郊祀儀礼における五方帝および五精帝に礼拝する部分だけを残し、郊祀儀礼で最も重要な祭祀対象の昊天上帝を取り除き、これに道教自身の至尊神である「無極大道」「太上老君」「元始天尊」などに置き替えた。つまり、

儒教が作り出した、至尊神の昊天上帝の周囲を五方帝がとりまくという祭祀の構図は実質上、道教がそのまま受け継ぐことになった。そして、五方帝や五老を礼拝する儀礼は時代が下るにつれ、一部の道教経典において十方の老君あるいは天尊に帰命する儀式となり、五方帝君の地位や役割は次第に縮小し、儒教的色彩もそれにともなって希薄化し消えていった。このような視点から考えれば、道教の歴史はひたすら国家権力や儒教に屈服する歴史ではなく、道教なりのやり方で目立たないよう国家権力や儒教に抵抗し続け、そこから自らの独立性を確立しようとした壮絶な歴史であった、という理解も可能であろう。

以上のごとく、六朝隋唐期の道教は儒教と佛教の二大勢力に挟まれつつ、また教理思想の薄弱さという点が常に佛教から攻撃され、また何度も反乱を起こしたという歴史要因から、しばしば儒教ないし国家に危険視されていた。このように内外共に不利な状況に立たされた道教は、六朝隋唐の長い時期を経て佛教儒教に対抗しつつも、佛儒二教から思想や儀礼などの思想的材料を吸収し、各方面において様々な整合化を試みてきた。本論文各章の考察結果から、六朝隋唐道教は確かに教理思想、特に祭祀儀礼に関する領域において整合をはかって努力し、一定の成果を成し遂げたことは看取できる。